

2019年度 教科課程

言語聴覚士科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位数)	学年			講義概要	
						1年	2年	3年		
基礎分野	人文学	心理学 Psychology	必修	講義	30	(1)	30			言語聴覚士としてクライアントを心理的側面から理解するために、人の認知、思考、行動などにおける心理過程についての基礎知識を身につける。
		カウンセリング Counseling	必修	演習	30	(1)	30			言語聴覚士として対人援助を行うために必要とされるカウンセリングについてその基本的な知識と技術を理解できる。
		教育学 Pedagogy	必修	講義	15	(1)	15			言語聴覚士が携わる教育分野の領域において専門的な連携を実現するために、家庭教育・学校教育・社会教育における人間と教育との関係や学校との関わり方を理解できる。
		プロフェッショナルへの道Ⅰ Career Seminar I	必修	演習	30	(1)	30			卒業時に必要とされる社会人基礎力と生活習慣や学習習慣の大切さを理解できる。人とのよい関係性を築きながら養成校で学ぶ学生としての身構えを身につける。
		プロフェッショナルへの道Ⅱ Career Seminar II	必修	演習	30	(1)		30		言語聴覚士として働くために必要とされる社会性や態度について理解できる。自らの行動を通して社会人としてのマナーや適切なコミュニケーション力を身につける。
		プロフェッショナルへの道Ⅲ Career Seminar III	必修	演習	30	(1)			30	言語聴覚士として働くために必要な周囲からの信頼の重要性と求められる能力について理解できる。実践的な学びを通して物事に積極的に取り組み、仕事に対する心構えを身につける。
	社会科学	コミュニケーション学 Communication	必修	演習	30	(1)	30			自己と他者の違い、人との関係性に気づき、円滑な人間関係を築くためのコミュニケーション行動を実践することで社会の中での他者とのより良い関わり方を身につける。
		社会福祉概論 Introduction to Social Welfare	必修	講義	30	(1)	30			言語聴覚士として地域での充足した支援を実現するために社会福祉に関する基礎的な知識や社会資源等の活用方法について理解できる。国家試験に則した社会福祉の知識を身につける。
	自然科学	統計学 Statistics	必修	講義	15	(1)		15		言語聴覚療法の質向上や研究発表などに必要な統計学への入門として、基本的な用語や計算法について理解できる。Excelを用いた計算やグラフ分析についてその初歩的技法を身につける。
		コンピューター Computar Skills	必修	演習	30	(1)	30			主にExcelやPowerPointなど、言語聴覚士が臨床で用いることの多いコンピュータ技能について、基本的な操作を身につける。
	外国語	英語Ⅰ English I	必修	講義	30	(2)	30			基礎的な英語力を用いた医療英会話による実践的な外国語学習を通して、民族や文化の多様性を理解できる。
		英語Ⅱ(医療英語) English II	必修	講義	30	(2)	30			ロールプレイングなどを用いた医療英語の実践的な学習を通して臨床現場や地域で想定される多様なコミュニケーション場面での対応力を身につける。
	保健体育	保健体育 Health and Physical Education	必修	演習	30	(2)	30			健康の維持と増進に向けて実践的に取り組み、WHOが掲げる健康の概念を理解できる。
	専門基礎	基礎医学	必修	講義	15	(1)	15			言語聴覚士が医療従事者として知っておくべき医学・医療全般についての基礎的事項を理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。

2019年度 教科課程

言語聴覚士科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位 数)	学年			講義概要	
						1年	2年	3年		
専門基礎分野	基礎医学	解剖学 I Anatomy I	必修	講義	30	(1)	30			人体の基本的な形態と構造について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
		生理学 Physiology	必修	講義	15	(1)	15			生体の活動に関するメカニズムについて理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
		病理学 Pathology	必修	講義	15	(1)	15			「病気」の基本的な原理について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	臨床医学	内科学(老年医学を含む) Internal Medicine	必修	講義	30	(1)	30			言語聴覚士が医療職として把握しておくべき内科的疾患について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
		小児科学 Pediatrics	必修	講義	30	(1)		30		こどもの平均的な成長と発達およびその障害要因、出生前～小児期における疾患について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
		精神医学 Psychiatry	必修	講義	15	(1)	15			ノーマライゼーションの理念をもとに精神疾患について理解できる。国家試験に則した精神医学の基礎知識を身につける。
		リハビリテーション医学 (チーム医療論Ⅱを含む) Rehabilitation Medicine	必修	演習	15	(1)	15			他職種連携の重要性を説明することができる。言語聴覚士としてチーム医療に携わるために必要な知識と役割について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
		耳鼻咽喉科学 Otolaryngology	必修	講義	30	(1)	30			言語聴覚士が把握しておくべき耳鼻咽喉科的疾患について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
		臨床神経学 Clinical Neurology	必修	講義	15	(1)	15			神経疾患の概要と病態、メカニズムおよび臨床に必要な診断・治療について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
		形成外科学 Plastic Surgery	必修	講義	15	(1)	15			発声発語器官の形態異常および機能不全への形成外科的なアプローチについて理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
	臨床歯科医学	臨床歯科医学・口腔外科学(I) Dentistry / Cranio-Maxillo-Facial Surgery	必修	演習	15	(1)	15			発声発語に関連する歯科口腔領域の解剖生理と臨床的アプローチについて理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
		臨床歯科医学・口腔外科学Ⅱ Dentistry / Cranio-Maxillo-Facial Surgery II	必修	講義	30	(1)			30	言語聴覚士が関与する臨床歯科・口腔外科領域の疾患や治療について理解できる。臨床と国家試験に必要な知識を身につける。
	音声・言語・聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態(I) Structure / Function / Disease of Respiratory, Phonatory and Speech System	必修	演習	30	(1)	30			呼吸器系を含む発声発語器官の構造と機能および病態について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
		呼吸発声発語系の構造・機能・病態Ⅱ Structure / Function / Disease of Respiratory, Phonatory and Speech System II	必修	講義	30	(1)			30	呼吸発声発語系器官の構造と機能、病態について言語聴覚療法と関連づけながら理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎知識を身につける。

2019年度 教科課程

言語聴覚士科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位 数)	学年			講義概要
						1年	2年	3年	
専門基礎分野	音声・言語・聴覚医学	聴覚系の構造・機能・病態(Ⅰ) Structure / Function / Disease of Auditory System	必修	演習	30	(1)	30		聴覚系器官の構造と機能について聴覚神経生理学の知識を用いて説明し、聴覚系の病態を理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
		聴覚系の構造・機能・病態Ⅱ Structure / Function / Disease of Auditory System Ⅱ	必修	講義	30	(1)		30	言語聴覚療法と言語機能に関わる聴覚機構について理解できる。臨床および国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
		神経系の構造・機能・病態(Ⅰ) Structure / Function / Disease of Nerve System	必修	演習	30	(1)	30		神経系器官の構造と機能を説明し、主な病態について概要を理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
		神経系の構造・機能・病態Ⅱ Structure / Function / Disease of Nerve System Ⅱ	必修	講義	30	(1)		30	言語聴覚療法に必要な神経生理学について理解できる。臨床および国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	心理学	臨床心理学 Clinical Psychology	必修	演習	30	(1)	30		言語聴覚士として対人援助を行う上で把握しておくべき臨床心理学の基本的な知識と心理療法について理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
		生涯発達心理学 Life-span Developmental Psychology	必修	演習	30	(1)	30		乳児期から老年期までの生涯にわたる心理発達について身体、運動、認知、行動、言語などの各側面から理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
		学習認知心理学 Learning / Cognitive Psychology	必修	演習	30	(1)	30		言語聴覚療法に関連する感覚・知覚・認知・学習・記憶などに関する心理学の実験や理論について理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
		心理測定法(Ⅰ) Psychological Measurement	必修	演習	30	(2)		30	閾値の測定や心的印象の数値化など心理学的測定手法について理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
		心理測定法Ⅱ Psychological Measurement Ⅱ	必修	講義	30	(2)		30	言語聴覚士が扱う様々な心理学的検査の実施根拠となる心理測定の主な理論、手法について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	言語学	言語学(Ⅰ)(言語心理学を含む) Linguistics	必修	演習	30	(1)	30		言語の機能と構造、社会的役割について認知神経心理学的視点から理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
		言語学Ⅱ Linguistics Ⅱ	必修	講義	30	(1)		30	言語聴覚療法の実施根拠となる言語機能と脳機能との関連性について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	音声学	音声学 Phonetics	必修	演習	30	(2)		30	音声の性質や構造などの基礎知識を理解できる。国際音声記号(IPA)に則した日本語話者の音声について説明できる。臨床と国家試験に必要な音声学の基礎的知識を身につける。
	音響学	音響学(Ⅰ)(聴覚心理学を含む) Acoustics	必修	演習	30	(1)		30	音の物理的側面および聴こえの心理的側面について理解できる。音声の性質について音響学的に分析するための手法を身につける。
		音響学Ⅱ Acoustics Ⅱ	必修	講義	30	(1)		30	音声の音響物理と聴覚心理について臨床および国家試験に必要な基礎的知識を身につける。

2019年度 教科課程

言語聴覚士科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位 数)	学年			講義概要
						1年	2年	3年	
専門基礎分野	言語発達学	必修	演習	15	(1)	15			前言語期から児童、青年期までの各発達段階における認知、概念、思考、言語などについて理解できる。
			講義	30	(1)		30		言語発達に関する理論や知見などについて理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	社会福祉・教育	必修	講義	15	(1)	15			リハビリテーションの理念や概念とチーム医療における連携の重要性を理解できる。医学的、社会的、職業的、教育的リハビリテーションについて理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
			講義	15	(1)			15	社会保障の理念と現代の日本社会における社会保障制度、社会福祉サービスや援助活動、医療との関連性および重要性について理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
			講義	15	(1)			15	言語聴覚士に必要な医療・保健・福祉に関する法規とわが国の医療・保健・福祉システムを理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
	専門分野	言語聴覚障害学総論	必修	演習	60	(2)	60		
演習				60	(2)	60			言語聴覚療法に必要なインテイクやスクリーニング、評価と診断、訓練技法などについて実践的な演習を行いながら基礎的な技術を身につける。
失語・高次脳機能障害学		必修	演習	30	(1)	30			失語症について基礎知識と症状、タイプ分類などが理解できる。失語症の方との関わり方を実践的に身につける。
			演習	30	(1)		30		失語症と周辺の言語症状について評価・診断・訓練の基本的な知識と技術を身につける。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
			演習	30	(1)		30		失語症と周辺の言語障害等について、症例検討を含めた演習を通して臨床に向けた基礎的な知識と技術を身につける。症例報告書の作成手法を理解できる。
高次脳機能障害学		必修	演習	30	(1)	30			高次脳機能障害について基礎知識とメカニズムを理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
			演習	30	(1)		30		高次脳機能障害の各症状と評価について具体的に理解できる。高次脳機能検査の種類と実施法および検査バッテリーについて理解できる。
			演習	30	(1)		30		高次脳機能障害の評価と訓練について症例検討を含めた演習を通して臨床に向けた基礎的な知識と技術を身につける。
	演習		30	(1)	30			言語聴覚士が行う主な言語機能検査や認知機能検査などの検査バッテリーについて理解できる。	

2019年度 教科課程

言語聴覚士科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位 数)	学年			講義概要
						1年	2年	3年	
失語・高次脳 機能障害学 言語発達障害学 専門分野 発声発語・嚥下障害学 聴覚障害学	臨床検査演習Ⅱ Clinical Examination Seminar II	必修	演習	30	(1)		30		言語聴覚士に必要な画像診断について理解できる。CTやMRIについて基礎的な読影技術を身につける。
	言語発達障害学Ⅰ (脳性麻痺および学習障害を含む) Developmental Disorder of Speech and Language	必修	演習	30	(1)	30			言語発達障害についての基礎的知識とそれらの特性について理解できる。国家試験に則した基礎的知識を身につける。
	言語発達障害学Ⅱ Developmental Disorder of Speech and Language II	必修	演習	30	(1)		30		言語発達障害の特性に応じた評価・指導・訓練のあり方について理解できる。発達段階に合わせた指導について基本的知識と技術を身につける。
	言語発達障害学Ⅲ Developmental Disorder of Speech and Language III	必修	演習	60	(2)		60		言語発達検査や言語発達を促す指導などについて理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識と技術を身につける。
	言語障害発達治療学 Developmental Therapies for Dysphasia	必修	演習	45	(2)		45		学内実習を通して対象児との接し方や発達指導の実際について理解できる。対象児の観察・評価・指導・目標設定などについて基本的知識と技術を身につける。
	音声障害 Dysphonia	必修	演習	30	(1)		30		音声障害の原因疾患と発生メカニズム、治療や訓練の基本的な技法について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	機能性構音障害 Dyslalia	必修	演習	30	(1)		30		機能性構音障害の発現メカニズムや特徴を理解できる。評価・訓練とその基本的な技法を習得することができる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	器質性構音障害 Dysglossia	必修	演習	30	(1)		30		口唇口蓋裂や舌、口腔、咽喉頭腫瘍その他の器質性疾患による構音障害についての特徴、分類、評価法および訓練の計画と訓練方法の基礎的知識を身につける。
	運動障害性構音障害Ⅰ Dysarthria I	必修	演習	30	(1)		30		運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患とメカニズムおよびその特徴について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	運動障害性構音障害Ⅱ Dysarthria II	必修	演習	30	(2)		30		運動障害性構音障害の評価・訓練および他の発話障害との鑑別について総合的に把握し、臨床に必要な検査や訓練方法および発話補助手段について理解できる。
	嚥下障害Ⅰ Dysphagia I	必修	演習	30	(1)		30		摂食・嚥下に関わる器官と嚥下のメカニズム及び嚥下障害の病態と原因、検査や訓練について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。
	嚥下障害Ⅱ Dysphagia II	必修	演習	30	(2)		30		摂食・嚥下障害について、チーム医療における多職種連携と言語聴覚士の役割を理解できる。摂食・嚥下の評価法と訓練技術、口腔ケア等について基本的知識と技術を身につける。
	吃音 Stuttering	必修	演習	30	(1)		30		吃音について特徴・経過・対応および発生の原因に関する理論や様々な立場からの見解を理解できる。吃音検査や他の流暢性に関する評価・訓練・指導方法について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。
小児聴覚障害 Hearing Impairment in Children	必修	演習	30	(1)		30		小児期の聴覚障害と言語発達への影響について理解できる。障害特徴と評価・訓練・指導の基本的知識および国家試験に則した基礎知識を身につける。	

2019年度 教科課程

言語聴覚士科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位数)	学年			講義概要		
						1年	2年	3年			
専門分野	聴覚障害学	成人聴覚障害 (成人視覚聴覚二重障害含む) Impairment of Hearing in Adults	必修	演習	30	(1)		30		成人期における聴覚障害の特徴と評価・訓練・指導の基本的知識について理解できる。情報補償と進学、就労への支援など、社会参加に向けた関連職種連携について理解できる。国家試験に則した基礎知識を身につける。	
		補聴器・人工内耳 I Hearing Aid / Cochlear Implant I	必修	演習	30	(1)		30		補聴器・人工内耳などについて基本的な原理と補聴器適合検査や人工内耳の調整に必要な基礎知識を理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎知識と技術を身につける。	
		補聴器・人工内耳 II Hearing Aid / Cochlear Implant II	必修	演習	30	(2)		30		補聴器・人工内耳などの装用と手術に関する基礎知識と聴覚補償について理解できる。臨床と国家試験に則した基礎知識を身につける。	
		聴力検査 I Hearing Examination I	必修	演習	30	(1)		30		言語聴覚士が行う主な聴力検査について機器を用いながら基本的な知識と技術を身につける。国家試験に則した基礎知識を身につける。	
		聴力検査 II Hearing Examination II	必修	演習	30	(2)		30		聴力検査を通して得られる測定データを用いて、聴覚障害の種類や疾患について考察するための基本的な知識と技術を身につける。臨床と国家試験に必要な基礎知識を身につける。	
	臨床実習	臨床実習 I Clinical Training I	必修	実習	200	(5)		200		実習施設において言語聴覚士の指導を受けながら対象者・児との円滑なコミュニケーション技術を身につける。症例について評価・考察を行い問題点抽出と訓練計画立案、目標設定、評価報告ができる。	
		臨床実習 II Clinical Training II	必修	実習	280	(7)		280		実習施設において言語聴覚士の指導を受けながら対象者・児との円滑なコミュニケーション技術を磨き、報告、連絡、相談の重要性を意識しながら言語聴覚療法を実践的に身につける。	
	選択必修分野	その他	見学実習 Clinical Experience	必修	実習	40	(1)	40			実習施設において、言語聴覚士の業務を見学し、多職種連携の実際と言語聴覚士の役割を理解できる。症例見学を通して疾患や症状の知識と実際の症例とを結びつけ、観察と記録の技術を身につける。
			一般臨床医学 Clinical Medicine	必修	講義	30	(1)		30		臨床に必要な医学的知識について総合的に理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎知識を身につける。
			解剖学 II Anatomy II	必修	演習	45	(1)		45		臨床に必要な解剖学的知識について総合的に理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎知識を身につける。
言語療法特論 I Special Lectures for Speech Therapy I			必修	講義	30	(1)		30		主に基礎分野について過去の国家試験問題や模擬試験問題を通して臨床と国家試験の合格に必要な知識を身につける。	
言語療法特論 II Special Lectures for Speech Therapy II			必修	講義	30	(1)		30		主に専門基礎分野について過去の国家試験問題や模擬試験問題を通して臨床と国家試験の合格に必要な知識を身につける。	
言語療法特論 III Special Lectures for Speech Therapy III			必修	講義	40	(1)		40		主に専門分野について過去の国家試験問題や模擬試験問題を通して臨床と国家試験の合格に必要な知識を身につける。	
言語療法特論 IV Special Lectures for Speech Therapy IV			必修	講義	45	(1)		45		言語聴覚士に必要な知識を総合的に関連づけて理解できる。国家試験に準じた模擬問題を通して国家試験の合格に必要な知識を身につける。	
国際教育 International Education			必修	演習	15	(1)		15		海外における言語聴覚士の仕事や最新の研究動向と国際的な視点や幅広い視野を持つことの重要性を理解できる。	